みでなく，本勧告草案の全体を貫く指導的精神にかんがみるならば，Section I，para. 1－(a)－(ii)における社会科学への言及に更に加えて，人文科学（哲学，文学，美学等）の重要性が指摘されることが望ましい。

5. 本勧告草案では，科学研究者の創造的資質の育成，尊重とその成果の評価，公開が強調されており，このことは高く評価すべきである。

だが，科学者の創造性が発揮されるために，極めて重要，かつ，不可欠な役割を期待されている研究補助者の地位の尊重についても明示することが望ましい。

6. para. 15－(e)，para. 24，33などと関連して，本人の意思を尊重すること，並びに配置転換，業績評価等に際しては，本人にたいし，民主的に選ばれた第三者判定機関への申立（appeal）の権利を保障することが望ましい。

10－3

総学庶第858号　昭和50年7月2日

文部大臣　永井道雄　殿

日本学術会議会長　越智勇一

昭和51年度科学研究振興に必要な予算について（申入れ）

標記について本会議第461回運営審議会の議に基づき下記のとおり申し入れます。

記

本会議は，政府に対し，従前より科学研究の振興に関して勧告を行っているが，なかでも，科学研究振興のための国家支出の飛躍的な増大とその体系の整備の緊要性について力説してきた。また，文部省所管の科学研究振興費，特に科学研究費補助金については，我が国の学問，とりわけ基礎科学の発展に果している役割並びに全科学者の同補助金に対する期待が極めて大なるものがあることにかんがみ，その大幅な増額を毎年，強く要望してきたところである。

それにもかかわらず，科学研究振興のための全般的経費は本会議の要望に応ずるにたる拡大増加がみられず，ことに科学研究費補助金については年々増額してきているものの，いまだに不十分であると考えるので，貴省の一層の努力を期待するものである。

科学研究費は，昭和50年度において幸い前年に比し，28億円の増額が行われたが，その増加額は卒直にいっていまだ十分とは言えない。すなわち，申請総額755億円に対し，予算総額は168億円に過ぎず，かねての「要望」にも述べたとおり，近年の物価騰貴が研究費に及ぼす影響は深刻であり，この事態に対応する額としてはきわめて不十分である。そのため，科学研究費補助金の飛躍的増加を期待する科学者の声はいよいよ増大している。

したがって，本会議は昭和51年度においては，少なくとも申請額の半ば程度を満たすことを目途として，総額並びに区分を下表のとおりとすることを適当と認めたので，その実現を強く要望するとともに，これを，人文，社会，自然の各分野を通じた科学研究の調和的発展のため，有効適切に使用する方法についてもさらに配慮を加えられるよう要望する。

区　　分	金　額（百万円）
科学研究費	36,200
特定研究(A)（がん特別研究 災害科学特別研究）	2,200
特定研究(B)	5,800
総合研究	4,000
一般研究	19,700
奨励研究	1,200
試験研究	2,400
海外学術調査	900
研究成果刊行費	1,800
合　　計	38,000

さらに，昭和51年度から始まる特定研究(B)として，本会議は慎重審議の結果，下記諸領域を選定した。貴省におかれては本案を極力尊重するとともに，領域の決定に当たって，あらかじめ本会議と十分な打合せを行われるよう要望するものである。

昭和51年度から始まる特定研究(B)の領域

近代国家における地方行財政制度の基礎的研究　（人文・社会科学関係）
考古学・美術史・建築史等に関する自然科学，保存科学（　〃　）
混　相　流　（自然科学関係）
熱エネルギーの有効利用に関する熱工学的及び化学的研究（　〃　）
海洋開発に関する基礎的研究　（　〃　）
自動車の排気浄化に関する基礎研究　（　〃　）
複素環化合物に関する基礎と応用の研究　（　〃　）
生体機能を有する高分子の開発　（　〃　）
化学分析による動的病態の解析　（　〃　）
生体エイジングの基礎過程の解明　（　〃　）
免疫応答の機構　（　〃　）
地球内部物質の研究　（　〃　）
生　体　膜　（　〃　）
生物機能の開発と応用　（　〃　）
情報システムの形成過程と学術情報の組織化　（複合領域関係）